

0～5歳児室 保育環境と育まれる力

発達 の 順序性

かつて発達 は 遺伝的なものに左右されると考えられていました。いくら教育しても生まれつきなので仕方がないという考えが大部分を占めていたのです。

しかし今では、遺伝的なものと同じくらい環境的な影響も大きいと考えられています。

発達は右肩あがりに直線的に進んでいくものでなく、一時的に足踏み状態になったりさか戻りしているように見えることもあります。

その時期、その時期に顕著に現れる行為を十分に保障することが「発達の援助」であり、その後の「発達を助長」することになるのです。

発達は個々によって差はありますが、必ず決まった順序で進んでいきます。生まれた赤ちゃんははいはいの時期を経ずに歩くことはできないのです。

保育環境デザインの大切なポイント

【保育の中でのゾーニング】

住まいづくりを始める時はまず「全体像」を描くことが大切です。住まいの性格を決めるのは全体的な構成です。

都市計画や建築プランなどで行われていたことですが、簡単に言うと機能や用途などを考えて空間を分けて配置することです。

各々のゾーンのつながりや動線なども考慮し使いやすい間取りを考える時に使われる手法です。

古代人も住まいにおけるゾーニングをしていたようですが、ゾーニングは住まい（保育室）の性格を決める大切なことです。

【緑視率】

目に入る景色の中で、どのくらいの草木の緑があるかということ「緑視率」といいます。

菌立が約25%あると緑が豊かだと感じ精神的にも良い影響があります。

緑視率は屋外だけでなく室内空間にもあてはまします。

緑視率が高くなるほど「暖かみがある」「親しみやすい」などと感じる割合が高くなり、「心地よさ」、「癒し」などの心理的な快適性を高めるそうです。

逆に植物が撤去されると喪失感やストレスを感じる割合が高くなります。

ただし室内では緑視率が高すぎても「うっとおしい、多すぎる」お感じる割合が高くなるので注意が必要です。

そのほかにもロフトや子どもたちが潜り込める空間なども子どもたちの精神的な安定につながります。

【1/fのゆらぎが感じられる音環境】

自然界の音には、人間の耳には聞こえない超音波が含まれています。それを「1/fのゆらぎ」といい、これを私たちの脳が感知することでα波が出て、リラックスできます。例えば葉っぱ同士がこすれる音や、ロウソクの炎がかすかにゆらめくような音です。規則性と不規則性が程よくミックスされた状態が良いとされています。無音の空間にいるよりも、うるさくない程度の雑音が聞こえていた方が落ち着くような気がします。スマホ、PCに囲まれた無機質な都市での生活で脳がα波を出す機会がなくなってしまう。そんな時には、自然界の音を聴いてみると、脳が1/fのゆらぎを感じてα波を出してくれるはずです。人間の生体は五感を通して外界から1/fゆらぎを感知すると、生体リズムと共鳴し、自律神経が整えられ、精神が安定し、活力が湧くと考えられています。かもめ保育園では常に窓を解放し園庭から鳥のさえずり、葉っぱのこすれる音、風が吹き抜ける音などが聞こえる「1/fのゆらぎ」を常に感じながら過ごせる環境を大切にしています。

【寝の空間】

遊びの場以上に一人ひとりの発達を考慮する必要があります。

環境は照明を薄い布で覆ったり障子越しの光にしたりして和らげます。

保育者が触れながら入眠できるようにすると良い。

乳児が昼間に寝る場合は室内を少し明るくし、音の刺激もあり、空気のよどみをなくすようにするといわれています。

昼寝に要する時間は個人差があり、布団を敷く時にはほこりもたちます。

昼食とは違う場所を用意しましょう。

0～5歳児室

0歳児室環境



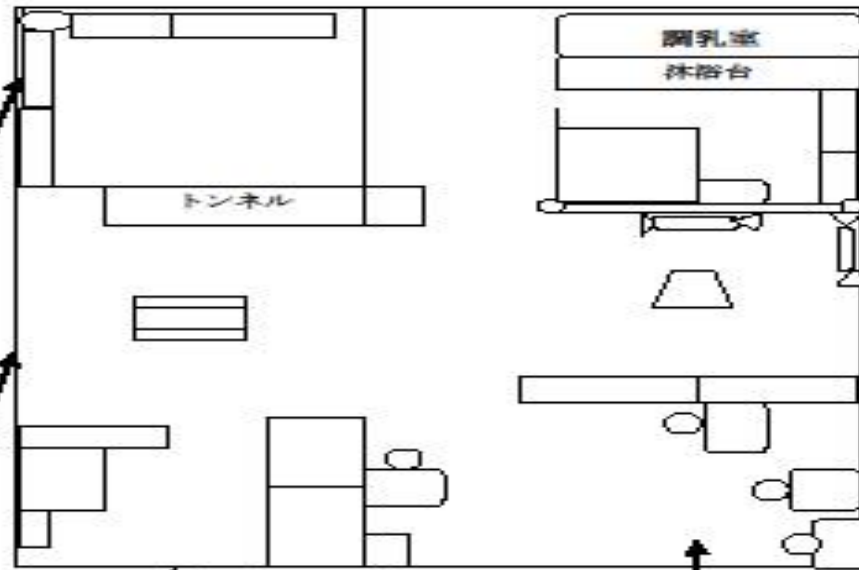
<畳コーナー>

- ・畳の上でゆったりと過ごせるようにしている。また、オーガンジー布や音の鳴る玩具も用意し、触覚や聴覚で遊びを楽しめるようにしていく。



<着替え・排泄コーナー>

- ・遊びの空間と仕切られた場所で着替えと排泄を行なっていく。
- ・安全面に配慮し、室内遊びの様子を見る事が出来るように仕切りの上の部分レースにしておく。



<動的コーナー>

- ・トンネルや大型マットを這い這いやずり這いで上り下りしたり、くぐったりすることで四肢を使って遊んでいく。
- ・食後は午睡スペースにもなり、子どもがいつも同じ場所で安心して眠れるように布団を敷く場所を固定していく。

<受け入れコーナー>

- ・登降園時、保護者の出入りによって遊びが妨げられないよう受け入れコーナーの出入り口の幅を調整していく。
- ・モビールを吊るして、登園後に気持を落ち着かせながら子どもが楽しめるようにしていく。



<食事コーナー>

- ・椅子・高テーブル1台、低テーブル3台の計4台で食事をしていく。子どもの座る位置から、周りが見えないようにし、集中して食事ができるようにしていく。
- ・背板のある棚を置くことで、視覚的に周囲の様子が気にならず、食事に集中できるようにしていく。

<指先コーナー>

- ・指先よりも手を使って遊ぶことができるように遊具を置いている。ポットン落としや、振って音の鳴る遊具などを中心に配置していく。
- ・キャンディークッションを置き、時には寝転んだりリラックスしたりして、個人のペースでゆったりと遊べるようにしていく。



1 歳児室環境



絵本コーナー

- ・ 戸外活動前後に絵本を見ながら落ち着いて過ごせるよう、テラス近くに設置。
- ・ 紙が厚めの丈夫な絵本を用意し、子ども自身でもページをめくる楽しさを味わえるようにする。
- ・ 必要に応じて絵本の入れ替えを行なう。
- ・ 壁面コーナーを置き、子どもがゆったりと過ごせるスペースを作る。



ままごとコーナー

- ・ 想像しながら遊びを広げていけるよう、お手玉やフェルト棒等、様々な色や素材の玩具を用意する。
- ・ 小窓付きのパーテーションを設置し、お店屋さんごっこ等、ごっこ遊びが展開していけるようにしている。
- ・ 世話遊びが充実できるよう、人形の衣服やエプロンの数を揃える。



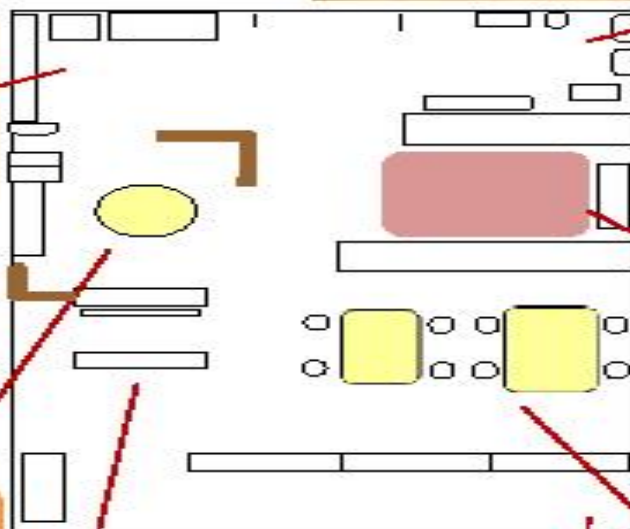
生活コーナー

- ・ 長椅子を置き、保育者と向き合い、丁寧に着替えや排泄が替えられる空間をつくる。
- ・ 着替える際に、保育士は部屋全体も見えるように向きを配慮する。
- ・ 個々のオムツケース、おしり拭き、着替えのカゴを置き、すぐに着替えや排泄が替えられるようにする。
- ・ 鏡と対面になり、丁寧に手洗いができるようにする。



構成（ブロック）コーナー

- ・ 壁や棚に囲まれた空間にすることで、集中して遊びこめるようにしている。
- ・ コーナーの範囲が分かりやすくする為、床に絨毯を設置する。



構成コーナー

- ・ 棚の上下を仕切り布で分け、それぞれの玩具で集中して遊べるよう環境を区切っている。
- ・ 指先の力や思考力、想像力が養われるよう、積み木やネフスピールを設置している。
- ・ レールトレイン棚には、動物など、広い空間を使って子どもたちがのびのびと遊べる玩具を提供していく。

受け入れコーナー

- ・ 季節の装飾をして、部屋に温かみを持たせるようにする。
- ・ 支度するスペースを十分に設ける。
- ・ 伝達ボードを置いて保護者に伝達ができるようにしている。

机上コーナー

- ・ 自分で遊びたい遊具を出し、椅子に座って遊ぶことを伝えていく。遊び終わった後も、自分で棚に戻すことを伝える。また、遊びを通して椅子の座り方も伝えられるようにする。

食事コーナー

- ・ 感染症対策の為、机上コーナーにてクラスごとに食事を取っている。
- ・ 4人1テーブル、1回8人ずつ2回転で食事をしている。アレルギー児は専用の机を用いて、食事をしている。
- ・ 食事コーナーの入口に長椅子を置き、食事の支度(エプロンをつけたり、手口を拭く)をする際には、そこに座って行なう。

2 歳児環境



絵本コーナー

- ・常に常時5冊ほど置き、見たい時に好きな絵本を自分で、時に保育者と一緒に読めるようにしている。また、図鑑や季節に合わせた本を用意し、興味の幅が広がるような本を用意している。定期的に本の入れ替えを行なっている。



構成コーナー

- ・積み木や電車等を用意している。遊びが広げられる十分なスペースを取り、子どもたちの表現力や創造性が育まれるようにしている。また、空間を分けることで、集中して一人ひとりが遊べるようにしている。



受け入れコーナー

- ・受け入れのスペースには、季節の装飾を飾り季節感を出し、気持ちよく登降園ができるように配慮している。



育児コーナー

- ・着替え用の椅子を2台用意し、着替えカゴを机の上に置いて着替えを行えるようにしている。

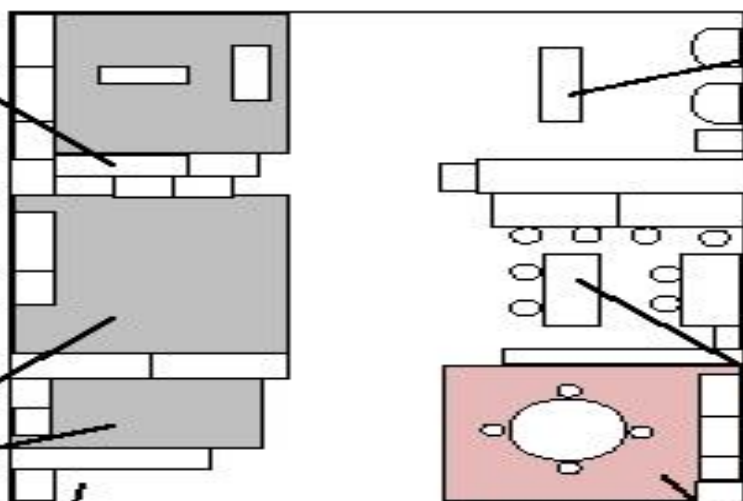


机上コーナー

- ・机を4台、椅子を横に8脚用意し、集中して遊べる空間としている。棚には、パズルや絵画し等、机上でじっくりと遊ぶ道具を用意している。

ままごとコーナー

- ・ごっこ遊びが楽しめるように、様々な素材（お手玉、フェルト等、フェルト、チェーンリング等）を用意し想像を膨らませて遊べるようにしている。
- ・子どもたちのままごと遊びの様子から、赤ちゃんの人形やベッド・ベビーカーを用意してごっこ遊びを楽しめるようにしている。



幼児（3・4・5歳児）室環境

絵の具コーナー

- ・自分で筆やパレット等の道具を使い、絵の具を使った制作を出来るように整えている。



積み木のコーナー

- ・1回ごとに片付けてしまうのではなく、テーマを設け遊びが発展し、継続していくように置いている。



ままごと・ごっこ遊びコーナー

- ・家の中に赤ちゃんの人形を置き、着替えやおむつ替えなどお世話出来るようにしたり、子ども用の服を用意しごっこ遊びを楽しめるようにしたりしている。



制作コーナー

- ・素材を置き、自分たちで考え好きな物を作れるようにしている。
- ・以前より制作コーナーを広げ、様々な道具を使い、制作できるように、環境を整えている。



構成遊びコーナー

- ・LaQやレゴを置き集中して遊ぶことができるようにしている。LaQは色ごとに分けたり、自分で必要なパーツを取って作成できるようにしている。

多目的ホール

- ・多目的ホールは、集まり、体育遊び、行事の際の集いの場所、午睡場所として使用している。

絵本コーナー

- ・畳みを敷いて落ち着いた雰囲気の中で好きな絵本を自分で選んでじっくり読める空間にしている。さまざまな絵本を通して文字への興味を自然と持てるようにしている。

受け入れコーナー

- ・室内に入って来て、放射状に室内を見て好きな遊びを決められるように環境を整えている。また、送迎時に保護者の方にも様子を見てもらえるよう、全体を見渡せるように設定している。

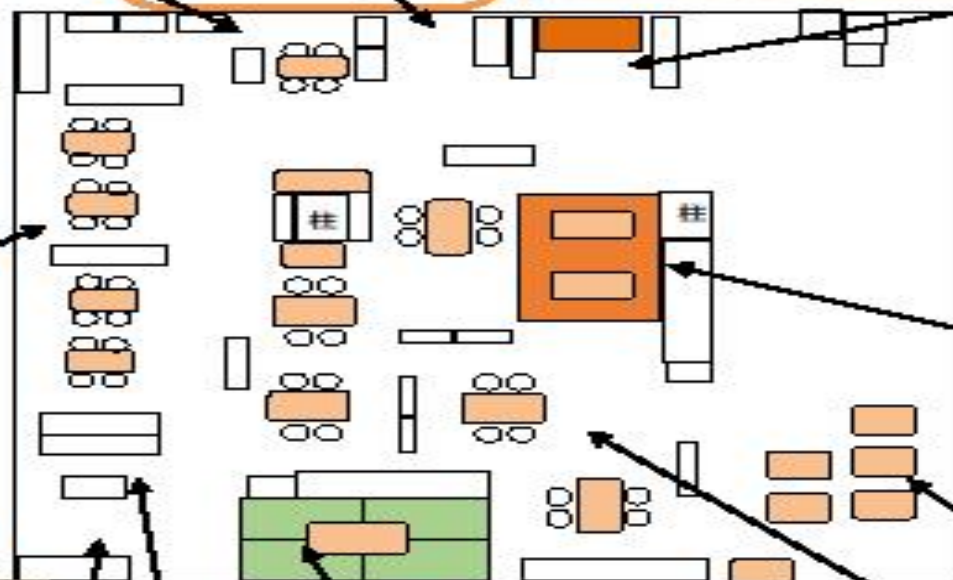
観察コーナー

- ・園庭で捕まえた昆虫を見たり調べたり出来るように虫眼鏡や図鑑、虫かごを置いて環境を整えている。



机上コーナー

- ・筆の持ち方なども遊びから取り入れている。
- ・さまざまなゲーム用意し、友だちと競い楽しめるようにしている。
- ・パズルや指先玩具を置き、集中して取り組むことができるように環境を整えている。



発達領域と保育環境

		製作 コーナー	クラ スル ーム	遊 戯 室	園 庭	音 楽 コ ー ナ ー	絵 本 コ ー ナ ー	自 然 観 察 コ ー ナ ー	ま ま ご と コ ー ナ ー	構 成 遊 び	積 み 木 コ ー ナ ー	集 団 遊 び	砂 ・ 水 遊 び
能力	発達領域							○				○	
認知能力	知覚								○			○	
	言葉						○		○	○	○	○	
	思考									○			○
	時間と空間/世界の探索		○						○				
情報能力	個性	○	○				○		○			○	○
	社会性を持った情報									○		○	
身体能力	運動能力	○		○	○								○
	芸術的表現	○	○	○	○	○	○						